



Title	時間表現と共起するenとdentro deに関する一考察
Author(s)	長縄, 祐弥
Citation	Estudios Hispánicos. 2015, 39, p. 93-120
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/98024
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

時間表現と共起するenとdentro deに関する一考察

長 縄 祐 弥

0. はじめに

本稿は、前置詞 en と前置詞句 dentro de のそれぞれがもつ時間的意味の用法を、それぞれの表現と共起する動詞および時間表現に注目しながら分類し、記述することを目的とする。そして、その記述をもとに dentro de の空間的意味と時間的意味に着目し、前者の意味と後者の意味の関連性に関する考察をおこなう。

en は空間的意味や時間的意味など、さまざまな意味を有する、いわゆる多義語であるといわれているが、今回はそのなかでも時間的意味に焦点をあて、考察をおこなう。(1)～(3)は時間の表現と共起する en の例であるが、それぞれ en によって表されている時間の範囲や参照点が異なっている。

(1) Se casó en 1976. 『彼は 1976 年に結婚した。』

(2) Leyó el diario en quince minutos. 『彼は 15 分で新聞を読んだ。』

(1),(2)—RAE (2009: 2267)¹

(3) Murió en unas pocas semanas. 『彼はわずか数週間後に亡くなった。』

—RAE (2009: 1695)

(1) はイベントや動作が実現されている時点を表す en であり、「結婚した」というイベントが時間軸上の 1976 年に位置づけられていることを表している。次に、(2) は動作を終えるのにかかった時間が表されており、「読む」行為が 15 分かけて終えられたことが示されている。最後の (3) では、行為の開始、あるいはイベント発生までにかかった時間が、過去の一時点を基準と

1 以下、スペイン語に付す日本語訳は特にことわりがない限り、筆者によるものである。

して表されており、この例においては、過去のある時点から数週間経った後に「死ぬ」というイベント発生時点が示されている。

このように、時間的意味を表す *en* の用例を綿密に観察すると、*en* と共起する動詞および時間表現についても考慮する必要があると思われるため、先行文献をもとに、*en* と共起する動詞および時間表現に関する次の3点を観察する。1つ目は時間表現が暦に基づいたものかそうでないものか、すなわち時間表現の性質について、そして2つ目は動詞のアスペクト、とりわけ語彙アスペクトに関する点、最後3つ目は時間を表す語がどの時点を参照点として指定するのかを観察する。

一方、(1)～(3)以外に、誤用とはいえないものの、RAE(2009)やSeco(2011)などが懐疑的な見方をしている *en* の用法が(4)で見られる。

(4) *Te llamaré en quince minutos.* 『15分後に君に電話するよ。』

—RAE (2009: 2267)

これは先の(3)と類似しているものの、発話時を基準として、行為やイベントが開始されるまでにかかる時間を表しているものであり、この例では15分後に「電話する」行為が開始されることが示される。このような場合における、よりふさわしい表現は *en* ではなく *dentro de* であると RAE(2009) は提唱しているが、ここで考慮すべき点は、*dentro de* は空間的意味で用いられる場合には『～の中に』という内包の意味を表し、文脈によっては *en* と交替可能であるにもかかわらず、時間的意味で用いられる場合には『～中に』や『～以内に』ではなく、『～後に』という意味があてられるため、*dentro de* が有する空間的意味と時間的意味の間にずれが生じているように思われる点である。本稿の後半ではこのずれについて取りあげ、これら2つの意味の関連性を考察する。

1. 時間表現の性質

en の時間的意味を観察する前に、まず時間表現の性質に関する先行研究の記述をまとめる。時間の認識の仕方には、暦に基づいたものとそうでないものの2種類が存在しており、Fillmore(1997)は(5)に示すように、それぞれ

Calendric、Non-calendric² という表現を用いて分類している。

(5) Calendric: “Time measure periods having fixed starting points in absolute time”

Non-calendric: “Time measure periods taken only as units of measure”

—Fillmore (1997: 49)

Fillmore(1997)によれば、絶対時間において特定の開始点を有する時間認識をカレンダー時間とし、時間を量としてみなす時間認識を非カレンダー時間としている。例えば、「1週間」がカレンダーの記載通り日曜日から土曜日（あるいは月曜日から日曜日）を指すならば、カレンダー時間ととらえられ、7日間を指すのであれば、非カレンダー時間ととらえられていると考える。また、カレンダー時間は「今年」や「先週」のような表現で表されるように、直示性が高いとされる一方で、「3時間」、「10日間」のように時間の量が表される非カレンダー時間は直示性が低いとしている。

このように時間表現を分類すると、カレンダー表現と共起しやすい用例と非カレンダー表現と共起しやすい用例があると考えられる。次章で詳述するが、先の(1)では *en* は 1976 (年) といったカレンダー時間と共起するのに対して、(2)～(4)においては、*quince minutos*, *unas pocas semanas* といった非カレンダー時間と共起する傾向があると思われる。

(1) Se casó en 1976. 『彼は 1976 年に結婚した。』

(2) Leyó el diario en quince minutos. 『彼は 15 分で新聞を読んだ。』

(3) Murió en unas pocas semanas. 『彼はわずか数週間後に亡くなった。』

(4) Te llamaré en quince minutos. 『15 分後に君に電話するよ。』

2 碓井(2008)はそれぞれ『カレンダー時間』と『非カレンダー時間』と訳をあてており、本稿ではこの表現を採用し、以降で用いる。

2. 前置詞 *en* の時間的意味

本章では、*en* の時間的意味の先行研究の記述をまとめつつ、*en* と共起する時間表現、動詞の語彙アスペクト、そして参照点として指定する時点という3つの観点を考慮に入れながら考察をおこなう。

2.1. *en* + カレンダー時間／非カレンダー時間

en の時間的意味のうち、もっとも基本的な用法は時点を示すものであり、RAE(2009) は次のように述べている。

«Cuando la preposición *en* introduce sustantivos temporales, adquiere varios significados. Si la expresión temporal es referencial, designa el momento o el período en que se localiza el suceso o el estado del que se habla: *Se casó en 1976*; *En el siglo pasado tuvimos grandes poetas*; *Alabó los éxitos alcanzados en el primer semestre del año*».

『前置詞 *en* が時間を表す名詞と共起するとき、様々な意味を持つ。もし、時間の表現が参照的であれば、発話にあるイベントや状態を位置づける時点や期間を示す。「彼は1976年に結婚した」「前世紀に偉大な詩人がいた」「彼はその年の前半期に収められた成功を賞賛した』

—RAE (2009: 2267) 下線、イタリックは原文ママ

en は *1976*, *el siglo pasado*, *el primer semestre del año* のような時間を表す名詞(句) と共起し、ある動作や行為が実現した時点を表している。例文中の時間を表す名詞を観察する限り、イベント発生時点を表す場合は *en* の後にカレンダー時間が共起しやすいと考えられる。

これに加え、*en* は非カレンダー時間と共起することで、動詞で示されている行為にかけられた時間を表すことも可能である。このことに関して、RAE(2009) は以下のように述べている。

«Otras veces la expresión «*en* + grupo nominal temporal» designa el tiempo que tarda en alcanzarse o en terminarse la situación, aspectualmente delimitada, que manifiesta el predicado principal. En estos contextos, *en* alterna con *al cabo de*, como en *Paul cerró el negocio en cuarenta y ocho horas* [...]. Se recomienda usar *al cabo de* o *después de* en estos contextos cuando el tiempo del que se habla no es el empleado en realizar la acción, sino el que transcurre hasta que se inicia o se lleva a cabo, como en *Te llamaré dentro de (mejor que en) quince minutos*. En cambio, en *Leyó el*

diario en quince minutos se indica el tiempo que abarca la acción de la que se habla, no el que ha de transcurrir hasta que se inicie».

『«*en* + 時間を表す名詞句」はアスペクトによって制限され、主動詞によって表されている状況に達する、もしくは終わるのにかかる時間を示している。「パウロは48時間で交渉を終えた」のような文脈においては、*en* は *al cabo de* と交替する。(中略) 行為を実現するのに必要な時間ではなく、「15分後に君に電話する (*en* よりも *dentro de* を用いるほうがよい)」のように行為が開始あるいは実現するまでに経過する時間を示す文脈においては *al cabo de* や *después de* を用いるほうがよい。それに対して、「彼は15分で新聞を読んだ」では行為の開始までに経過した時間ではなく、行為がおよんだ時間を示している。』

—RAE (2009: 2267) イタリックは原文ママ

RAE(2009)は、時間を表す名詞句、つまり非カレンダー時間と共起する場合には、その主動詞は動詞の語彙アスペクトによって制限されると述べている。さらに、*en* は発話時を基準とした未来の文脈、例えばこの引用における *Te llamaré dentro de quince minutos* では、*en* よりも *dentro de* を用いるほうがよいとしている。RAE(2009)のように、この *en* の用法に対して懐疑的な見解を示している文献は多く、*en* には発話時を基準としてある行為がおこなわれるまでの期間を表す用法はなく、避けたほうがよいとしている (García Fernández(1999), Moliner(2007³), RAE(2005), RAE(2009), Slager(2010), Seco(2011))。

次項では、この記述をもとにまず初めに動詞のアスペクトと *en* の時間的意味の関係について観察する。

2.2. スペイン語における動詞の語彙アスペクト

RAE(2009: 1692)によれば、スペイン語の動詞の語彙アスペクトは継続性、テリック性、動作性の3つの特徴の有無によって、1. *Actividad* 『活動』、2. *Realizaciones* 『到達』、3. *Consecuciones* 『達成』、4. *Estados* 『状態』の4つに分類される。この分類をもとに、RAE(2009)は *en* と動詞の語彙アスペクトの関係について、(8)と(9)をあげつつ、以下のように述べている。なお、本稿では、以下の記述にみられるように、*en* が時間的意味を有するときに共起する、2および3の到達動詞と達成動詞に特に焦点をあてるが、これら2つのアスペクトにおいて異なる点は、前者はその行為の継続性を有しており、後者はそれを有していない点である。

«Los predicados que expresan realizaciones admiten con naturalidad los complementos temporales encabezados por *en*. [...] Los predicados de consecución se asimilan a los de realización en este punto. No obstante, como no poseen duración, no se pueden asociar con períodos. El lapso denotado en la construcción «*en* + grupo cuantificativo temporal» no es ocupado en ellos por el evento mismo. Por el contrario, corresponde a una extensión temporal anterior a la consecución del evento, más exactamente una FASE ...».

『到達を表す述部動詞は *en* によって導かれた時間を表す補語を自然に認める。(中略) この点において、達成動詞は到達動詞と類似している。しかしながら、継続の意味を有していないため、期間と関連付けることはできない。「*en* + 時間量を表す句」で示される期間はそのイベント自体によって占められる期間ではない。反対に、その期間はイベントの達成、より正確にはイベントのある段階より前の時間的範囲に相当する…』

(8) Rossini compuso El barbero de Sevilla en pocas semanas.

『ロッシーニは『セビリアの理髪師』をほんの数週間で作曲した。』

(9) Murió en unas pocas semanas. 『彼はわずか数週間後に亡くなった。』

—RAE(2009: 1695) 筆者により一部編集

この記述によれば、到達動詞と達成動詞に導かれた *en* は、時間量を表す名詞句、すなわち非カレンダー時間と共起できる点で類似しているものの、到達動詞と共起した *en* は期間を表すことが可能である一方で、達成動詞と共起した *en* はそれが不可能であり、イベントのある段階をむかえるまでの時間が表される。(8) は到達動詞 *componer* と共起している例であり、作曲するという行為が数週間かかったこと、つまり *en* 以下で表されている期間が動詞の表す行為の期間と一致しているのに対し、達成動詞 *morir* と共起している (9) では過去のある時点から数週間経った後に亡くなったことが表されている。

ここで、先に引用した RAE(2009: 2267) の例文を改めて観察すると、*Paul cerró el negocio en cuarenta y ocho horas* では、*cerró* は達成動詞であり、ある時点から 48 時間後に交渉が終わったことを示しているのに対し、*Leyó el diario en quince minutos* では *leyó* が到達動詞であるため、*leer* で表される行為が *quince minutos* で表された時間を要したことを表している。すなわち、達成動詞とは異なり、『15 分後に読んだ』ではなく、『15 分で読み終えた』

と解釈される。しかしながら、例えば、*Vuelvo en cinco minutos* では達成動詞が用いられているものの、このような文脈においてはenではなく、dentro deを用いたほうがよいとされるのは2.1. で述べたとおりである。このようなenの用法が好まれない要因はenが発話時を基準して期間を定めることができないことに起因していると思われる。そのため、enがより規範的に用いられるためには、スペイン語の時間表現がどの時点を参照点としてとるのかを考慮する必要がある。

2.3. 時間表現がとる参照点

時間表現がとる参照点に関して、RAE(2009: 1817)は«Si se atiende a su naturaleza referencial, los adjuntos temporales pueden dividirse en función de la forma en que se orientan deícticamente»『参照の性質を考慮すると、時間を表す付加詞は直示的に定められた形式によって分類が可能である。』と述べ、以下の3つに分類可能であるとしている。

1. Adjuntos temporales orientados en relación con el momento del habla (ANCLAJE DEÍCTICO)

『発話時について定められる時間を表す付加詞（直示的固定）』

2. Adjuntos temporales orientados en relación con un punto temporal que no sea el momento del habla (ANCLAJE ANAFÓRICO)

『発話時ではない、ある一時点について定められる時間を表す付加詞（前方照応的固定）』

3. Adjuntos temporales orientados en relación con cualquier punto temporal (ANCLAJE VARIABLE)

『いかなる時点についても定められる時間を表す付加詞（可変的固定）』

—RAE (2009: 1817)

RAE(2009: 1817)はそれぞれの3つのグループに関する説明を以下のようになっている。まず、グループ1に属するのは*mañana, el próximo verano, «hace + 時間量を表す名詞句»* や、*«dentro de + 時間量を表す名詞句»* のような語句であり、これらは発話時を参照点とする。そして、グループ2に属するのは*al día siguiente, dos semanas antes, al cabo de tres meses* のような語句であり、発話時以外のある時点を参照点として指定する。最後に、グループ3

に属するのはいかなる時間をも参照点として指定することが可能である語句であり、「*en el plazo de* + 時間量を表す名詞句」や *recientemente* などが例として挙げられる。

en の扱いについてはここでは述べられていないものの、*dentro de* と交替可能ではないことから、*en* はグループ 2 に属すると考えられる。つまり、発話時を基準として『～後』という意味を表す場合には、*dentro de* を用いるのが規範的であるとされるが、その一方で *en* は発話時ではない別の時点を基準とするため、*Vuelvo en cinco minutos* を『(これから) 5 分後に戻る』と表すことができないと考えられるのである。

以上のことから、スペイン語における時間表現について考察する場合は、動詞の語彙アスペクトだけではなく、動詞と共起する前置詞や前置詞句などの付加詞の性質についても考慮する必要があると思われる。

2.4. *en* の用法まとめ

ここまでの *en* の時間的意味について、共起する時間表現および動詞の語彙アスペクト、*en* が指定する参照時点という 3 つの点を加味すると 4 つに分類可能であるが、これをまとめたものが表 1 である。

表 1 *en* の時間的意味の分類

例文	時間	語彙アスペクト	参照時	相当する日本語の表現
(1)	カレンダー時間	制限なし	発話時以外	～に
(2)	非カレンダー時間	達成	発話時以外	～かかって、～で
(3)	非カレンダー時間	到達	発話時以外	～後に、～たって
(4)	非カレンダー時間	制限なし	発話時	～後に、～たって

- (1) *Se casó en 1976.* 『彼は 1976 年に結婚した。』
- (2) *Leyó el diario en quince minutos.* 『彼は 15 分で新聞を読んだ。』
- (3) *Murió en unas pocas semanas.* 『彼はわずか数週間後に亡くなった。』
- (4) *Te llamaré en quince minutos.* 『15 分後に君に電話するよ。』

3. 前置詞句 *dentro de* の空間的意味と時間的意味

ここまで、*en* の時間的意味について考察したが、次にその類義語とされる *dentro de* の意味の観察をおこなう。ここで *dentro de* の意味の観察をおこなうのは、*en* と *dentro de* は空間的意味および時間的意味において、交替可能な文脈が存在するためである。ただし、後者の意味の *en* と *dentro de* の交替は好ましくないと判断する先行研究の記述があるのは前述の通りである。まず最初に *dentro de* の空間的意味をあつかうが、本稿では空間的意味については先行研究の記述を概観するとどめ、時間的意味を主に考察する。

3.1. *dentro de* の空間的意味

en が空間的意味かつ内包を表す場合、多少のニュアンスの差はあるものの、*dentro de* と交替可能であることが Pavón Lucero(1999) で述べられている。

«...; el adverbio *dentro* y la preposición *en*, alternan en numerosos contextos, pero el valor de la preposición es mucho más amplio y menos específico que el del adverbio. Por ejemplo, una construcción como *dentro del armario* puede considerarse equivalente desde un punto de vista semántico a *en el armario*; ...».

『(中略) 副詞 *dentro* と前置詞 *en* は多くの文脈で交替するが、前置詞の意味は副詞のそれよりもずっと広く、特定のではない。例えば、*dentro del armario* のような文は意味的観点から *en el armario* と等価であると考えられる。』

—Pavón Lucero (1999: 601) イタリックは原文ママ

en と *dentro de* の差異について、Pavón Lucero(1999) はこの記述以降の個所で、*dentro de* と *en* が交替できない例³を述べているが、その理由および意味の差異には触れていない。一方、Slager(2010) はその差異に言及し、境界の概念を際立たせるためには *en* よりも *dentro de* を用いるほうが適していると述べ、(10)～(12)をあげながら、これら2つの表現は交替可能であるとしている。

3 «construcciones como *en Madrid* o *en la hierba* no son parafraseables por *dentro de Madrid* y *dentro de la hierba*, respectivamente». (Pavón Lucero 1999: 601)

«Aparece con sentido espacial en frases donde compite con la preposición **en**, aunque **dentro de**, precisamente por no ser preposición y por admitir énfasis contrastivo, sirve mejor que **en** para subrayar la idea de delimitación (**dentro**, pero no fuera)».

『(dentro de は) 前置詞 en と競合する文において、場所の意味を伴って現れるが、dentro de は前置詞ではなく、対比の強調を認めるゆえに、境界の概念(中であり、外ではない)を際立たせるために en よりも適する。』

(10) [**Dentro de /en**] un radio de pocos kilómetros, dispondrá de 12 campos de golf.

『半径数キロの範囲で、12のゴルフ場ができるであろう。』

(11) Esto facilita la libre circulación de personas [**dentro de /en**] Europa.

『これにより、ヨーロッパ間の人の自由な往来が容易になる。』

(12) [**Dentro de /en**] nuestro país, ya es una de las figuras más prestigiosas.

『我が国では、彼はすでもっとも権威のある人物のうちの一人である。』

—Slager (2010: 93) 筆者により例文番号変更。太字は原文ママ

また、この Slager(2010) の記述をもとに、空間的意味で dentro de が用いられる際に、どのような名詞が共起するか Mark Davies の Corpus del español を用いて検証した⁴ところ、*área, límite, marco, país* のような範囲を有する名詞、あるいは境界そのものを表す名詞と共起しやすいことが観察された。一方で、dentro de は『～の中』という内包の意味を有することから3次元の空間を有するものと共起しやすいのではないかと考えられたが、それほど多くは観察されなかった。

さらに、Hernández(2013) は dentro de と en が交替可能な場合とそうでない場合を、それぞれ異なる要素を有する名詞 *país, restaurante, avión* について検証した後、以下の結論を導きだし、dentro de は境界とその形状を示すもの、そして内と外の対立をより明確にする語であると述べている。

4 dentro de + [任意の冠詞] + [任意の名詞]、dentro del+ [任意の名詞] を検索結果に表示させるために、それぞれ dentro de [*L] [*NN]、dentro del [*NN] と記入し、検索をおこなった。なお、時代は20世紀に限定した。

- «(i) La locución prepositiva *dentro de* se comporta como configurador descriptivo y marcador de bordes;
- (ii) La delimitación de fronteras activada por *dentro de* se acompaña, a nivel pragmático, de una tensión *dentro-fuera* que consideramos ligada a un esquema de imagen interior-exterior en combinación con el modelo del contenedor;
- (iii) El empleo de *dentro de* exhibe afinidad con contextos de oposición interior-exterior frecuentes en dominios que presuponen la existencia de fronteras».

『(i) 前置詞句 *dentro de* は明確な形状を示すもの、そして端を示すものとして振る舞う。

(ii) *dentro de* によって活性化された境界は、語用論のレベルにおいて、内と外の対立を伴うが、それは容器のモデルと組み合わされた内と外のイメージスキーマに関連付けられると考えられる。

(iii) *dentro de* の使用により、境界の存在を前提とする範囲において内と外の対立が頻繁に見られる文脈との類似性が示される。』

—Hernández(2013: 112)

こうして、Slager(2010) や Hernández(2013) の記述で観察されるように、*dentro de* は *en* に比べて、境界の概念、すなわち内部と外部の境界明示の度合いの程度がより大きい語句であり、それゆえに空間的意味において微妙な差異がみられるといえそうである。

3.2. *dentro de* の時間的意味

dentro de の時間的意味について、例えば DRAE⁵ では «para indicar el término de un período de tiempo visto desde la perspectiva del presente» 『現在から見た期間の終わりを指す』(RAE 2014: s.v. *dentro*) と定義され、例として *dentro de dos meses* 『2ヶ月後』があげられている。つまり、*dentro de* は発話時を参照点とする前置詞句であり、概して *dos meses* のような時間量を表す語句、すなわち非カレンダー時間と共起し、『～後に』という解釈がなされるが、それゆえに現在および未来時制の文で用いられ、過去時制では用いられない。その一方で Slager(2010) は、*dentro de* が持つ時間を表す意味を2つに分類している。

5 RAE (2014) *Diccionario de la lengua española 23ª edición* を指す。

«**Dentro de** también se usa mucho con **sentido temporal**. En este caso hay dos usos distintos entre sí: además del de delimitación que se observa en (13), sirve para indicar el momento final de un plazo, como en (14), (15)»

『**dentro de** は時間を表す意味としてもよく用いられる。この場合、2つの異なった用法がある。つまり、(13)において観察される、期間の用法と、(14)、(15)のように期間の終わりの瞬間を示す用法である。』

(13) Todo [se ha hecho/se hará] **dentro de** los plazos previstos. (es decir, antes de finalizar los plazos)

『すべてが定められた期間内に [終わられた/終わられるだろう]。(つまり、その期間が終わる前に)』

(14) Creo que *dentro de* un rato estaré repuesto. (es decir, cuando termine ese plazo)

『しばらくしたら回復すると思う。(つまり、その期間が終わったときに)』

(15) Se está preparando una misión para **dentro de** seis meses. (idem)

『半年後までにある任務が準備されているところである。(前文と同様)』

—Slager (2010: 93) 筆者により例文番号変更。太字は原文ママ

このように Slager(2010) は *dentro de* の意味には2種類あると述べ、そのうちの1つは DRAE が定義する意味と同一のものであり、(14) および(15) のように *un rato*, *seis meses* といった非カレンダー時間と共起し、その時間が経過したあとに主動詞で表されている行為が実現されることを表す。これに対して、(13) の *los plazos previstos* ように、特定の期間を表す名詞が共起すると、*dentro de* は期間が終了する前、すなわち『～以内に』と解釈され、これがもう1つの意味であると述べる⁶。

さらに、高垣(監) (2007) も Slager (2010) と同様、(16)～(18) の例をあげ、*dentro de* に2つの意味があることを認めている。

6 RAE(2005) のように、辞書によってはこの時間的意味を空間的意味の比喩的用法の例としてあげているものがあり、時間的意味は『～後に』という意味のみとしているものもある。

時間表現と共起する *en* と *dentro de* に関する一考察

1. (+時間を表す表現 ...) 後に

(16) **dentro de una semana** [ocho días] 『1週間後に』

2. (+期間を表す表現 ...) 期間内に

(17) **dentro de este año** [esta semana] 『今年 [今週] 中に』

(18) **dentro de los 15 días siguientes** 『15日 [2週間] 以内に』

—高垣(監) (2007: s.v. *dentro*) 筆者により一部変更。日本語訳は原文ママ

また、二宮 (2012) は、*dentro de* は定名詞句と共起すれば、『～の中で』という意味をなし、不定名詞句と共起すれば『～の後に』という意味をなすと述べており、*dentro de* は2つの時間的意味を有するとしている。

このように、共起する時間表現によって、*dentro de* の意味を2つに分類して記述している辞書、文法書および先行研究は確認されるものの、『～後に』という意味のみを記述しているものもあるため、(17) および (18) のように *dentro de* がカレンダー時間と共起して、『～以内に』と解釈される頻度はまれではないかと推測される。そこで、CREA を利用し、*dentro de una semana / esta semana, un mes / esta mes, un año / este año* のそれぞれが用いられている例文を検索し、実際の使用頻度を検証した。その結果を表2にまとめ、表の下には *dentro de esta semana, dentro de este mes* が含まれる (19)、(20) をあげた。なお、(20) における下線部は和訳した個所を示す。

表2 *dentro de* と共起する時間表現の頻度数

	<i>un, una</i>	<i>este, esta</i>
<i>semana</i>	87	2
<i>mes</i>	108	3
<i>año</i>	167	10

- (19) El último combatiente soviético que abandone Afganistán puede dejar Kabul **dentro de esta semana**, antes del 6 de febrero, si el tiempo lo permite, según aseguraron ayer fuentes diplomáticas occidentales en la capital paquistaní.

『アフガニスタンから撤退している最後のソビエト軍は、天候が許せば、

(長 縄)

今週中、2月6日までにカブールを離れることが可能であると、パキスタンの首都のヨーロッパの外交筋が昨日述べた。』

—CREA [El País, 01/02/1989] 太字は筆者による

- (20) Francisco Villodres, portavoz de UCD, replicó que el trámite aprobado es necesario, entre otras cosas porque la ley básica de Empleo establece que una serie de prestaciones deben figurar en los Presupuestos Generales del Estado, lo que hace necesario la aprobación de la ley dentro de este mes de julio, ya que los presupuestos se presentarán al comenzar el otoño.

『初秋に予算を提出するため、以上のことについて、今月、7月中に法の承認が必要⁷である。』

—CREA [El País, 11/07/1980]

下線、太字は筆者による。日本語訳は下線部のみ

dentro de がカレンダー時間と共起する場合には『～中に』、あるいは『～以内に』と解釈されるものの、その頻度は少なく、仮説通り dentro de は非カレンダー時間と共起し、『～後に』と解釈されることが多いようである。

このように2つの意味に分類可能なのは、de 以下の時間表現の性質によるものであると思われるが、これは dentro de がカレンダー時間と共起する場合、その時間表現が直示性を有することで、期間の始まりと終わりが示唆され、発話時が参照点とみなされなくなるためであると考えられる。例えば、(19)の記事は1989年2月1日の水曜日のもので、文中の esta semana は1月30日の月曜日から2月5日の日曜日までを指していると考えられ、発話時が参照点になるとはいいがたく、たとえそうであっても、『～後に』と解釈されるためには時間量を表す表現、すなわち非カレンダー時間と共起する必要があると考えられる。また、『今週が終わったら』という解釈が可能であると考えられるとしても、この解釈は dentro de esta semana に続く、antes del 6 de febrero によって誤りであると判断できる。以上から dentro de が有する時間的意味は、頻度の差はあるものの、共起する時間表現によって意味が分類可能であると考えられ、先の2つの文献の分類は妥当であると思われる。

7 これに関して、二宮(2012)は『特定の期間を表わすので、副詞句の時間の起点は起点の最初』と言及している。

しかしながら、ここで問題となるのは、この時間的意味と空間的意味がどのように関連付けられるかということである。すなわち、空間的意味は『～の中に』と解釈される一方で、時間的意味の場合には先に検証した『～以内に』、あるいは『～中に』という解釈はまれで、『～後に』という意味で用いられる場合がほとんどであり、空間的意味と時間的意味にある類似性を単純には見いだすことができない。これに加え、時間的意味が空間的意味の『～の中に』という意味に引きずられ、例えば *dentro de una semana* が『1週間後』ではなく『1週間以内』と解釈可能であるとする文法書や辞書は管見によればほとんどなく、*dentro de* の空間的意味と時間的意味の関連性が希薄に感じられる。この2つの意味の関連性については次章であつかうが、その前に次項では、時間的意味で用いられる場合の特徴を空間的意味と比較しながら *dentro de* の中心的意味が空間的意味であることを確認する。

3.3. dentro de の中心的意味

ある語彙が空間的意味と時間的意味を有している場合、空間的意味が中心的意味となり、そこから時間的意味へ意味拡張がおこなわれることはよく論じられており、定延(2002)はこのことについて次のようにまとめている。なお、カッコ内はそれぞれの研究者の主張の差異を吸収するためのものであり、下線部 A は多くの研究者が概して指示している内容、また下線部 B は下線部 A の内容を説明しようとする際に用いられる概念としている。

『語彙が空間的用法と時間的用法を持つ場合、(何語にかぎらず) (通時的にも共時的にも) 空間的用法が基本で時間的用法が派生的という傾向がある A。(そしてこのことは、偶然によるものでなく、認知的動機に基づいている。つまり人間にとって空間は時間よりわかりやすく基本的なので B、人間が語彙の空間的用法をもとに、時間的用法を派生させるのは、自然なことである。)]

—定延(2002: 184)原文ママ

定延(2002)はこのような記述をおこなっているものの、この筆者自身は空間と時間を峻別することに対して懐疑的な態度を示している。これに関する議論は別の機会でおこない、ここでは空間的意味から時間的意味へ意味拡張が生じていることが通説であることを示すにとどめる。これに加えて、定延(2002)は下線部 A を認める根拠を提示している研究として、靑山(1992)

および靱山 (1995) を紹介し、これらの中で靱山 (1995) は『用法上制約がない、あるいは少ないものをプロトタイプの意味と認定し、用法上制約のあるものを非プロトタイプの意味 (転義) と考え』 (靱山 1995: 626)、「ところ」や「遠い」「近い」などのいくつかの語彙を検証し、それらを、空間的意味がプロトタイプの意味で時間的意味が非プロトタイプの意味である語彙と、どちらがプロトタイプの意味であるか判断がつかない語彙の 2 つに分類している。

この靱山 (1995) の基準を援用して観察すると、副詞 *dentro* には空間的意味しかなく、時間的意味はないことが用法上の制約といえそうである。というのも、時間的意味は *dentro* だけでは表すことができず、*de* を伴って時間表現をとる必要があるためである。この事実を指摘しているのは Pavón Lucero (1999) であり、例えば、(21) では *entregar* という動作が 2 週間後におこなわれることが示されているが、(22) のように *de* 以下を省略すると、時間の意味を失い、場所を表す補語が聞き手によって補われる。

(21) *Te lo entregaré dentro de dos semanas.*

『君にそれを 2 週間後に渡すよ。』

(22) *Te lo entregaré dentro.* 『君にそれを (建物などの) 中で渡すよ。』

—Pavón Lucero (1999: 603) 太字は筆者による

この現象は DRAE をはじめとする辞書の記述からも明らかであり、*dentro* の項目には空間的意味のみ記述されているのに対し、その成句として記載されている *dentro de* の項目には空間的意味および時間的意味の記述が見られる。

以上で述べた統語的制約を考慮すると、*dentro de* のプロトタイプの意味は空間的意味であり、時間的意味は非プロトタイプの意味といえそうである。

また、*dentro de* と数詞が共起する場合、空間的意味として用いられている例は少なく、ほとんどが非カレンダー時間であり、『～後に』という意味が表されることが CREA での検索⁸において確認される。一例として *dentro de dos* を検索した結果を表 3 にまとめた。

8 検索条件は特に指定していない。

時間表現と共起するenとdentro deに関する一考察

表3 dentro de dos と共起する時間表現とその頻度数

共起する名詞	件数	共起する名詞	件数
año	135	mes	57
décadas	3	minutos	1
días	30	semanas	96
domingos	3	siglos	1
horas	14	temporadas	2
jornadas	1	時間表現以外	28
		合計	371

この結果から、dentro de と数詞が共起する場合にそれに続くのは時間表現がほとんどであることが明らかであり、さらに得られた例文を詳細に観察すると、dos kilómetros のような空間的距離を表す表現と共起する例や時間表現で空間的距離を表す例はなかった。前者の例については、例えば『2km 以内に』と表したい場合には、前出の(10)、[Dentro de /en] un radio de pocos kilómetros, dispondrá de 12 campos de golf のように un radio という範囲を表す語句が必要であると考えられる。また、『～後に』という時間的意味を空間的意味にあてはめた『2km 進んだところで』のような表現は確認されなかった。

一方、後者の例である、時間表現で空間的距離を表す用法は他の前置詞には見られ、例えば a には(23)のような時間的意味に加えて、(24)のように時間表現で空間的距離を表す用法が観察される。つまり、スペイン語において、時間表現で空間的意味を表すことは可能であるものの、dentro de にはその用法は見られないようである。

- (23) El^[sic] salió primero de la habitación y quedamos en encontrarnos en el bar, cuando yo bajé a los diez minutos estaba en animada conversación con una dama.

『彼は最初に部屋を出て、私たちはバルで落ちあうことにした。そして、私が10分後に降りると、彼はある女性と楽しく会話をしていた。』

- (24) El colegio para nuestro hijo está a diez minutos de casa, el hospital también.

(長 縄)

『息子の学校は家から10分のところにある。病院もそうである。』

—CREA 太字は筆者による

ここまで述べた dentro と dentro de の空間的意味と時間的意味の分布をまとめたものが表4である。

表4 dentro, dentro de の空間的意味と時間的意味の分布

	日本語にあたる表現	空間的意味	時間的意味
dentro	中に	○ (A)	×
dentro de	～の中に / ～以内に	○ (B)	○ (C)
	～後に	×	○ (D)

この分布を考慮して、dentro de のプロトタイプの意味を設定するにあたり、この前置詞句の中核をなす副詞 dentro 自体が空間的意味のみを有し、時間的意味を有していない一方、前置詞句 dentro de は空間的意味と時間的意味の2つを有することから、空間的意味がよりプロトタイプ的であるといえそうである。しかしながら、時間的意味が『～後に』という意味を表す際、この意味が空間的意味として応用されない事実の扱いについて問題が残る。しかしながら、表4の(D)の意味を中心的意味、つまりプロトタイプの意味とする場合、先に述べた dentro の特徴を考慮すると、(D) から (C) へと『～後に』という意味から『～以内に』という意味が派生し、そして (C) から (B) へと時間的意味から空間的意味に拡張がおこなわれ、(B) から (A) へさらに拡張しているとは考えにくい。これに加え、(D) の場合には数詞としか共起できないという制約も加味すると、時間的意味がプロトタイプの意味とはいいいにくい。以上のことから、dentro de のプロトタイプの意味を空間的意味と定め、次章では (B) および (C) の意味と (D) の意味の関連性を考察する。

4. dentro de の空間的意味と時間的意味の関連性

前章で dentro de のプロトタイプ意味を空間的意味であると定め、そこから時間的意味が拡張していることを確認したが、次に検証すべきことは『～の中に』という空間的意味と『～後に』という時間的意味の間における関連性に関する点である。というのも、多義語の分析において、プロトタイプの

意味の設定と同様に、そのプロトタイプの意味から派生した意味がどのように関連付けられているかを明示することも重要であるためである。そこで、本章では、先行研究の記述を確認しながら、空間の意味からこの時間的意味への拡張プロセスに関する考察をおこなう。

4.1. end-point focus (終端焦点)

end-point focus の概念は Lakoff(1987) において *over* の意味分析の際に用いられており、『～を越えて』という経路を表す意味から、その経路の終点に焦点を当てた結果、『～を越えたところに』という意味が表すことが可能になるという。(25) および (26) では、Sam が「車で橋を渡ること」、「丘を歩いて越えること」をそれぞれ表し、この *over* は経路を表しているとされる。

(25) Sam drove over the bridge.

(26) Sam walked over the hill.

—Lakoff (1987: 422)

これに対して、(27) および (28) では *over* は前述の経路の意味ではなく、『～を越えたところに』という経路の終点の意味で用いられるため、(27) では Sam は「丘の上」や「丘に登る途中」ではなく、「丘を越えたところに」住んでいることが表される。同様に、(28) では Sausalito は「橋を渡ったところに」いることが表される。このように Lakoff(1987) は経路の終点に焦点をあてる end-point focus の概念を用いることで、(25) や (26) の意味から、これら (27) と (28) の意味が派生していることを説明している。

(27) Sam lives over the hill.

(28) Sausalito is over the bridge.

—Lakoff (1987: 422)

この概念を英語の *in* に応用しているのが瀬戸 (2007) であり、これは英語の多義語がどのようなプロセスを経て中心的意味から派生的意味へ拡張しているかを説明している辞典で、*in* の項目の記述および例文を観察すると、時間的意味は本稿であつまっている *en* と *dentro de* が有する時間的意味にほぼ対応しているように思われる。つまり、(29) および (30) の 1996, *her life* よう

(長 縄)

にカレンダー時間や期間を表す名詞と共起すれば、ある時点もしくは、ある期間内を表し、(31)の *two years* のように非カレンダー時間と共起すれば期間の終わりを指すと考えられる。

(29) in 1966

(30) Despite the hardships in her life, her narration is not bitter or resentful.

(31) The degree should be completed in two years.

—瀬戸 (2007: s.v. in)

瀬戸 (2007) は『〈場所・空間〉の中で』という意味を *in* の中心的意味とし、そこからメタファー展開して『〈期間〉の中で [に]』という時間的意味が派生し、さらに「全体で部分」を表すメトニミー的展開によってその時間的意味から『〈期間〉の終わりで [に]』という意味が派生していることを述べ、この時間的意味の意味拡張は *over* と同様、*end-point focus* の概念によるものであると補足説明している。それゆえ、この概念を応用することで、*dentro de* の時間的意味が『〜中に』から『〜後に』という意味へ拡張しているプロセスを説明することが可能と思われる。しかしながら、*over* には先の (29) の *Sam drove over the bridge* に見られるように、始点から終点の経路を表すという概念的イメージがそもそも存在し、その経路の終点に焦点をあてることで、『〜を超えて』という意味から『〜を超えたところで』という意味が派生していることは理解できる一方で、*in* の中心的意味は内包の意味であり、そこには経路が見られず、「終点」の概念を見出すことが困難であると思われる。さらに、「終点」の概念は *in* の空間的意味の場合には見られず、時間的意味の場合のみにしか見られないことから、*end-point focus* の概念を *in* のみならず、*dentro de* の時間的意味の派生プロセスに応用することはふさわしくないと考えられる。

4.2. 三好 (2014)

dentro de の時間的意味に関する先行研究⁹に三好 (2014) があるが、このな

9 2014年10月18日に第378回関西スペイン語学研究会でおこなわれた口頭発表である。

かで三好(2014)は dentro de は期間の表現と共起すること、そして期間を計る基準点(起点)の情報を与える語句であることを結論として提案している。まず、前者の主張に関して、dentro de は『～以内に』と『～後に』という解釈の間に明瞭なすみ分けはなく、共起している時間表現が本稿で用いているところのカレンダー時間であっても、非カレンダー時間であっても「期間」として解釈されると、(32)を例にあげながら述べている。なお、この例は「dentro de + カレンダー時間」の例として筆者が採り、口頭発表(長縄:2012)の際に用いたものであるが、本来はバルセロナ市が管理する、市民の通勤通学用のレンタル自転車を借りる際に利用者に対して表示される注意書きである。

(32) Recuerda que debes devolver la bicicleta **dentro de las próximas 2 horas** en cualquier estación.

『2時間以内に自転車をステーションに返却してください。』

—長縄(2012)

この自転車は2時間以内に返却しなければ、ペナルティとして罰金が科せられるため、文脈から判断すると、『～後に』ではなく、『～以内に』と解釈するのが妥当であると思われる。また、これまでの考察を援用すると、共起している名詞がカレンダー時間であることから、『～以内に』であると判断可能である。しかしながら、三好(2014)は、ここでの dentro de は発話時、つまり借りた時点を参照点としているため、本来ならば『～後に』と解釈されるはずであるが、文脈から判断すると、『～以内に』と解釈されるため、発話時を参照点としても『～以内に』という解釈が可能であると述べ、それゆえ、共起する名詞句が定、不定かどうか、つまりカレンダー時間、非カレンダー時間かどうかという基準で、dentro de の意味を『～以内に』と『～後に』に分類できないと主張する。そして、その主張をふまえて、dentro de は期間を計る基準点(起点)の情報を与える語句であると結論づけている。

しかしながら、この時間表現は直示的表現である *próximas* を含んでおり、この語自体が発話時を参照点と指定する語である¹⁰ ゆえに、dentro de は『～

10 本稿の2.3.において引用したRAE(2009)の分類によるもの。

後に』ではなく、『～以内に』という解釈がなされると思われる。これは、**dentro de** と共起する時間表現に発話時基準の語が含まれる場合には、**dentro de** から発話時を基準とする機能が失われるのではないかと考えられるためである。また、共起する時間表現がカレンダー時間の場合、期間の開始時点が発話時であることも可能であり、例えば、前出の (19) は実際には水曜日に書かれた文章であるものの、週の始まりである月曜日に書かれたとしても **dentro de** は『～以内に』と解釈されると考えられる。

- (19) El último combatiente soviético que abandone Afganistán puede dejar Kabul **dentro de esta semana**, antes del 6 de febrero, si el tiempo lo permite, según aseguraron ayer fuentes diplomáticas occidentales en la capital paquistaní.

また、三好 (2014) は本稿で問題としている『～以内に』と『～後に』という意味の間における関連性について、前者は期間全体を指すのに対して、後者は期間の終点を指すことから、瀬戸 (2007) と同様、『～後に』という意味は全体で部分を示すメトニミー、すなわち *end-point focus* によって拡張していると述べ、さらに、スペイン語の名詞 “*término*” の概念と類似しているのではないかと提案しているが、これら2つの意味の関連性については、明確には提示していないと思われる。

4.3. **dentro de** の空間的意味『～の中に』と時間的意味『～後に』の関連性

本章の冒頭で述べたように、多義語の分析において、プロトタイプの意味の設定とそこから派生する意味の拡張プロセスを明確にすることは重要であるとされている。ここでは、**dentro de** の時間的意味である『～後に』がそのプロトタイプの意味である『～の中に』という空間的意味とどのように関連付けられているのか、先に確認した先行研究とは異なった視点から考察をおこなう。

これら2つの意味の関連性において重要であると考えられる点は、3.1. で述べたように、空間的意味の **dentro de** は境界をより明確にする語である点、そして範囲を表す名詞あるいは境界そのものを表す名詞と共起しやすい点である。空間的意味におけるこの特徴を時間的意味に応用する場合、その境界は期間の始点と終点であると考えられる。この「境界」に着目して **dentro de** の時間的意味を観察すると、カレンダー時間が共起する場合には、その直示

的性質により、期間の開始時点と終了時点が明らかであるため、前出の (13) である、*Todo [se ha hecho/se hará] dentro de los plazos previstos.* のように、空間的意味の『～の中に』がメタファー的に拡張し、『～以内に』あるいは『～中に』といった時間的意味に解釈がなされる。

その一方で、非カレンダー時間と共起する場合には、時間量を表すのみという時間表現の性質上、カレンダー時間のように期間の開始時点と終了時点が明確ではないため、これらの時点を位置づける要素が必要となる。それゆえ、非カレンダー時間と共起する場合、*dentro de* は発話時を参照点として指定する、すなわち期間の開始時点を表す機能を果たす一方で、終了時点を示す機能を果たすのはイベント発生時点であると考えられる。つまり、*dentro de* と共起する非カレンダー時間が表している範囲の境界は発話時点と、その期間後に実現されるイベント時点と考えられる。

以上から、*dentro de* が時間的意味で用いられる文には4つの時点すなわち期間の開始時点および終了時点、発話時点、イベント発生時点が存在しているものと考えられ、さらに、期間にはある程度の時間の範囲と、その範囲の境界を形成するもの、つまり開始時点と終了時点で構成されうると考えられる。*dentro de* がカレンダー時間と共起する場合には、カレンダー時間それ自体で、期間の開始時点と終了時点、およびその時間の範囲を明示することが可能であるため、期間そのものを表すことができ、イベント発生時点はその期間内に、また発話時点は任意の時点に置かれる。その一方で、非カレンダー時間と共起する場合には、発話時点が期間の開始時点を示し、イベント発生時点が終了時点を示すことで、非カレンダー時間が表す時間の範囲を示すことが可能であると思われる。言い換えれば、カレンダー時間が共起する場合には期間そのものに焦点があてられ、発話時点とイベント発生時点が背景化するのに対して、非カレンダー時間が共起する場合にはカレンダー時間と共起する場合に背景化されている部分、すなわち発話時とイベント発生時点、つまり範囲の境界部分に焦点があてられ、まさに範囲の境界の部分に焦点をあてた結果、『～後に』という意味が派生していると考えられる。

このように、同じ対象であっても、その対象のどの部分に焦点をあてるかによって、異なった意味でとらえられるのは図地反転の概念で説明可能であると思われる。ここで、図とは知覚における刺激や情報のなかで相対的に重要なものを指し、その反対に、地は図と比べて重要でないものを指す。これら図と地の関係は表裏一体であり、地があることで初めて図が成立し、地は

地で図に対して背景を与え、図の解釈に、消極的であるものの、影響をおよぼすものであるとされる(辻(編)2013: s.v. 図と地)。これを *dentro de* の時間的意味に応用すると、『～以内に』あるいは『～中に』という意味においては、その時間の範囲が図となることで、その期間の始まりと終わりは地となるが、反対に『～後に』という意味では、期間の開始と終了時点が図、その時間の範囲は地となり、背景として認識されると考えられる。つまり、これら2つの意味の関連性は図地反転の概念によって説明可能であると思われる。

しかしながら、この説明は『～中に』と『～後に』という2つの意味の関連性をどのように明らかにするかを述べたものであり、問題として残るのは、例えば *Volveré dentro de 10 minutos* と言った場合に、発話者は *dentro de 10 minutos* を「ちょうど10分経ったとき」を想定して発話しているのか、「10分以上経つ可能性を含めて10分後」と発言しているのかは文脈がない限り判断できないことである。これに関しては、コーパスを用いながら実際の言語現象を観察する必要があるが、例えば *dentro de una semana* を含むニュースを検索すると、(33)のような例が確認された。

- (33) *Airbus espera publicar sus cifras dentro de una semana, pero fuentes del consorcio europeo ya anticiparon que tuvo también entregas récord y que superarán así las 626 que registraron en 2013.*

『エアバスは1週間後に実績を発表する予定であるが、エアバス関係者は納入機数もまた記録を更新し、2013年に記録した納入機数626件を超えるだろうと予測した。』

—El País[06/01/2015]¹¹ 太字、点線は筆者による

この記事が書かれた日は1月6日、点線部のイベント発生時点は1月13日であると考えられ、13日の記事を確認すると、*Airbus supera a Boeing en pedidos de aviones, pero queda atrás en entregas* という見出しの記事¹²があり、「実績」が発表された旨が書かれている。つまり、この場合 *dentro de una semana* は「ちょうど1週間後」が表されていることが確認される。このように、

11 http://economia.elpais.com/economia/2015/01/06/actualidad/1420563158_700245.html
[最終アクセス日 2015年1月30日]

12 http://economia.elpais.com/economia/2015/01/13/actualidad/1421147540_840033.html
[最終アクセス日 2015年1月30日]

「dentro de + 非カレンダー時間」が用いられている用例を検索し、実際にその非カレンダー時間で示された期間が経った時点でイベントが起きているか検証することが可能であるものの、これは一例であり、『～後に』が実際に指し示しうる時点の確認方法については今後の課題とする。

5. おわりに

本稿では、en およびその類義語とされる dentro de の意味、なかでもこれらの持つ時間的意味を中心に考察した。第1章では時間表現の性質に関して、Fillmore(1997)の記述をもとに、暦に基づく時間であるカレンダー時間と、そうではない時間である非カレンダー時間があることを確認した。

続いて、第2章ではenの時間的意味を共起する時間表現の性質、動詞の語彙アスペクト、そしてenが指定する参照点という3つの観点から、enの意味が4つに分類可能であることを提案した。また、これらの意味には今日広まっている意味とされる、『～後に』という意味も含まれるが、この用法に対して批判的な態度をとる先行研究も少なくないことを確認した。

本来、この『～後に』という意味を表すのは dentro de であるが、第3章ではenと類義語とされるこの前置詞句の意味を分析した。ここでは、先行研究の記述をもとに、enの空間的意味と比較しながら dentro de の空間的意味を観察し、これら2つの語句は、内包の意味で用いられる際にはほぼ同義であるといわれるものの、境界明示の度合いが dentro de のほうがenよりも大きいことを指摘した。次に、時間的意味についても同様に確認し、共起する時間表現の性質によって、dentro de には2つの意味があることを述べた。すなわち、カレンダー時間と共起する場合、『～中に』あるいは『～以内に』と解釈される一方、非カレンダー時間と共起する場合には、『～後に』と解釈され、さらに前者の意味よりも後者の意味のほうがより頻度が高いことをコーパスによって確認した。そして、この章の最後では、dentro de の中心的意味、すなわちプロトタイプの意味について、定延(2002)および靱山(1995)の記述をもとに分析をおこない、この前置詞句の中心的意味を空間的意味と定め、時間的意味はその派生義とした。

最後の第4章では、『～の中に』という空間的意味と『～後に』という時間的意味の間の関連性に関する考察をおこなった。というのも、多義語の分析では、プロトタイプの意味を設定することと同様に、プロトタイプの意味からその派生義がどのようなプロセスを経て拡張しているのかを明らかにす

ることも重要であるためである。この拡張プロセスに関しては、いわゆる終端焦点である *end-point focus* (Lakoff: 1987) の概念を用いて説明可能であるという先行研究の記述が確認されたが、この概念は英語前置詞 *over* のように始点から終点の経路を表すイメージがそもそも存在するなかで発達したものであり、*dentro de* には経路の概念が見られないことから、*end-point focus* の概念を *dentro de* の意味派生に応用することはふさわしくないと結論づけた。そこで、*dentro de* は空間的意味において、*en* に比して、境界を明確に示す傾向があることから、『～後に』という意味は境界そのものに焦点があてられた結果、拡張したものではないかという仮説をもとに考察をおこなった。つまり、カレンダー時間が共起する場合にはその時間表現の性質により、期間の始まりと終わりがすでに指定されている一方で、非カレンダー時間が共起する場合にはそれは固定されておらず、始点と終点、つまり境界が明示されないため、期間の始まりを表す発話時点と、その終わりを表すイベント発生時点が境界を形成し、さらにその2つの点に焦点があてられた結果、『(発話時点から)～後に』という意味が拡張したと考えられる。この2つの意味の関連性は図地反転の概念によって説明可能であると思われ、『～中に』という意味で用いられる場合には、時間の範囲は図、その期間の始まりと終わりは地と認識される一方で、その関係が反転し、期間の開始と終了時点が図、その時間の範囲が地となった結果、『(発話時点から)～後に』という意味で解釈されるようになったのではないかと結論づけた。

今後の課題として、*dentro de* が『～後に』という意味で用いられる際、実際に示す時点の確認方法を確立することがあげられる。また、第2章で本来 *dentro de* を用いる個所で *en* を用いることが今日広まっていることを述べたが、*dentro de* と *en* に両者は実際の言語使用では同じ意味で用いられるのか別の機会を検証をおこないたい。これは両者が空間的意味で用いられる場合、それぞれで境界明示の度合いの程度が異なるため、その差異が時間的意味においても見られるのではないかと考えられるためである。

6. 参考文献

- Bosque, Ignacio y Violeta Demonte (dirs.) (1999) *Gramática descriptiva de la lengua española*, 3 vols., Madrid, Espasa-Calpe.
- Fillmore, Charles (1997) *Lectures on deixis*, Stanford, CSLI Publications.
- García Fernández, Luis (1999) *Los complementos adverbiales temporales*. La

- subordinación temporal en Bosque y Demonte (1999) pp.3129–3208.
- Hernández, Patricia C. (2013) La locución prepositiva dentro de como marcador de bordes. Una descripción según el enfoque cognitivo-prototípico, *Linguística*, 29 (1): pp.81–114
- Lakoff, George (1987) *Women, fire, and dangerous things*, Chicago, University of Chicago.
- Moliner, María (2007³) *Diccionario de uso del español*, Madrid, Gredos.
- Pavón Lucero, M.^a Victoria (1999) Clases de partículas: preposición, conjunción y adverbio, en Bosque y Demonte (1999) pp.565–655.
- Real Academia Española (2005) *Diccionario panhispánico de dudas*, Madrid, Santillana.
- (2009) *Nueva gramática de la lengua española*, Madrid, Espasa-Calpe.
- (2011) *Diccionario del estudiante secundaria y bachillerato*, Madrid, Santillana.
- (2014) *Diccionario de la lengua española 23^a edición*, Madrid, Espasa-Calpe.
- Seco, Manuel (2011) *Nuevo diccionario de dudas y dificultades de la lengua española*, Madrid, Espasa-Calpe.
- 碓井智子 (2009) 「時間の認知モデル」山梨正明他 (編) 『認知言語学論考』8 ひつじ書房 : pp.1–80.
- 定延利之 (2002) 「時間から空間へ？」生越直樹 (編) 『対照言語学』東京大学出版会 : pp.183–215.
- 瀬戸賢一 (2007) 『英語多義語ネットワーク辞典』小学館.
- 長縄祐弥 (2013) 「時間を表す前置詞 en と『以内に』にあたる表現」 SELE2013 口頭発表、2013年8月29日.
- 二宮哲 (2012) 「Dentro de + S(intagma) N(ominal) definido o indefinido」 SELE2012 口頭発表、2012年8月29日.
- 高垣敏博 (監) (2007) 『西和中辞典 (第2版)』小学館.
- 辻幸夫 (編) (2013) 『新編 認知言語学キーワード事典』研究社.
- 三好準之助 (2014) 「スペイン語の前置詞句 dentro de ~の時間表現について」 第378回関西スペイン語学研究会口頭発表、2014年10月14日.

(長 縄)

- 梶山洋介 (1992) 「多義語の分析—空間から時間へ」カッケンブッシュ寛子他
(編)『日本語研究と日本語教育』名古屋大学出版会 : pp.185–199.
- (1995) 「多義語のプロトタイプの意味の設定方法と実際—意味転用の一
方向性 : 空間から時間へ」『東京大学言語学論集』14 : pp.621–639.

7. 資料体

- Davies, Mark (2002-) Corpus del español [en línea] Disponible en <<http://www.corpusdelespanol.org>> [最終アクセス日 : 2015 年 1 月 21 日]
- REAL ACADEMIA ESPAÑOLA: Banco de datos (CREA) [en línea] Corpus de referencia del español actual. Disponible en <<http://www.rae.es>> [最終アクセス日 : 2015 年 1 月 21 日]